

平成 29 年度新規事業

特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会事業報告

北川貴章・新平鎮博・澤田真弓・武富博文・伊藤由美・滑川典宏

(情報・支援部)

要旨：文部科学省は、スポーツ基本法に基づいて策定された、スポーツ基本計画を基に、障害者スポーツの推進を図っている。また 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催や障害のある人の生涯学習の充実に向けて、各地域や学校では、「体育・スポーツ」を通じた様々な取組が行われている。そこで、本研究所では、平成 29 年度より特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会協議会を全国特別支援学校校長会と共催で開催することになった。今年度は、全国各地の指導的立場にある教員や指導主事等 47 名の参加があった。当日は、行政説明、調査報告、実践報告、基調講演、ボッチャでの実技交流といった内容で展開された。参加者からのアンケートを見ると、充実した内容であり有意義であったという感想が多く、好評のうちに終えることができた。また今回は一日日程での開催で日程的に詰まっており、情報交換の時間や各種発表をゆっくり聞きたかったとの感想も寄せられた。本協議会の内容や日程の在り方については今後の課題である。

見出し語：教師の専門性，体育・スポーツ，障害者スポーツ

I. はじめに

平成 23 年 8 月に施行された「スポーツ基本法」においては、「スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。」とされている。平成 26 年度から、スポーツ振興の観点から行われる障害者スポーツに関する事業が厚生労働省から文部科学省に移管され、文部科学省は、スポーツ基本法に基づいて策定された、スポーツ基本計画を基に、障害者スポーツの推進を図っている。

また 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催や、同年から実施される新学習指導要領に基づく新たな特別支援教育の展開を契機に、文部科学省オリンピック・パラリンピックレガシー事業として、全国の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育の全国的な祭典を開催するため、『「Special プロジェクト 2020」文部科学省推進本部』を設置して検討が進められている。さらに障害のある人の生涯学習

の充実に向けて、各地域や学校では、「体育・スポーツ」を通じたに様々な取組が行われている。

平成 29 年 4 月に告示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領総則第 2 節 2 (3) では、体育・健康に関する指導において、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活をおくるための基礎が培われるよう配慮しながら児童・生徒の生きる力を育むことを目指すよう記されている。

このような現状を踏まえると、特別支援学校の体育科の授業や部活動等のスポーツ指導に携わる教師の専門性向上や特別支援学校が計画・実施する体育・スポーツに関する活動のさらなる充実が広く求められると考える。

そこで障害のある児童生徒の自立や社会参加と生涯学習への基盤を養うことができるよう、特別支援学校を拠点とした体育・スポーツ活動の更なる充実に資するために、今年度より「特別支援学校「体育・スポーツ」指導者実践協議会」を全国特別支援学校

校長会との共催で開催することにした。

本稿では、当日の様子も交えながら、今年度の本事業の取組について報告する。

Ⅱ. 事業について

1. 実施目的

各都道府県の特別支援学校において、体育・スポーツ活動に関して、指導的立場にある教員等による実践交流・情報交換を通じて、体育・スポーツ指導の専門性の向上及び特別支援学校を拠点とした体育・スポーツ活動の充実を図り、以て障害のある児童生徒の自立や社会参加と生涯学習への基盤を養うための資質・能力の向上を目的として実施した。

2. 実施日

平成29年8月18日（金）9時～16時

3. 会場

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
大研修室及び体育館

4. 協議会参加者

本協議会の実施目的を踏まえ、参加資格は、特別支援学校の体育・スポーツ活動に関して指導的立場に立つ教員等で、今後、都道府県内においてオリンピック・パラリンピックムーブメントを推進することが期待される者とした。都道府県及び指定都市教育委員会、特別支援学校を設置する国立大学法人に開催通知を送付し、所管の各教育委員会教育長（国立大学附属特別支援学校においては学長）から推薦を受けた特別支援学校教員47名の参加となった。参加者の内訳は次のとおりである。

<所属機関>

特別支援学校からの参加：43名

教育委員会事務局よりの参加：4名

<職層別>

教諭：39名

主任教諭：1名

教頭：2名

校長：1名

指導主事：4名

<性別>

男性：40名

女性：7名

5. 実施内容

今年度は、次の内容に沿って行われた。

【午前】

- (1) 開会式
- (2) スポーツ庁行政説明
- (3) みんな de スポーツ推進委員会調査報告
- (4) 事例報告（全体発表）
- (5) 基調講演

【午後】

- (6) スポーツ実技交流（ボッチャ）

6. 当日の様子について

1) 開会式

開会式では、主催者である国立特別支援教育総合研究所理事長宍戸和成（写真1）と全国特別支援学校校長会会長横倉久氏（東京都立大塚特別支援学校校長）（写真2）が挨拶を行い、本協議会の目的や意義等について参加者全員で確認を行った。



写真1 【主催者挨拶】



写真2 【全国特別支援学校校長会挨拶】

2) スポーツ庁行政説明

スポーツ庁健康スポーツ課障害者スポーツ振興室室長の田中聡明氏より「障害者スポーツの振興について」と題する行政説明が行われた。冒頭、平成26年度に厚生労働省から文部科学省に移管されたスポーツ庁について、参加者の理解を深めるために、組織構成や役割、業務等について説明があった。「障害者スポーツの現状」について、障害者のスポーツ・レクリエーションの参加状況や障害者スポーツ施設の実態、スポーツ・レクリエーションの実施の障壁等について、文部科学省が平成27年度に行った調査などの結果等を基に報告があった。

さらに「障害者スポーツの振興に係る具体的取組」について、「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」やオリンピック・パラリンピックに関する文部科学省の事業等の説明があった。（写真3）

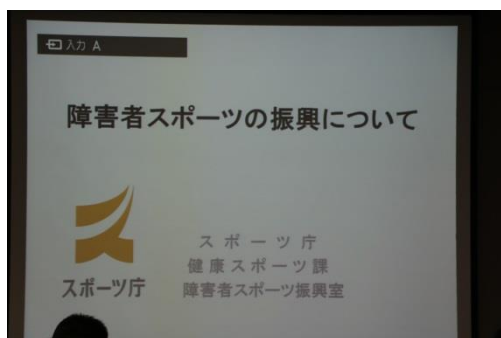


写真3 【スポーツ庁行政説明】

3) みんな de スポーツ推進委員会調査報告

特別支援学校長会の検討組織として位置付く、みんな de スポーツ推進委員会では、平成28年度に障害のある幼児児童生徒のスポーツの場としての特別支援学校の実態把握を目的に全国調査を実施した。本協議会では、みんな de スポーツ推進委員会委員長三浦浩文氏（東京都立八王子東特別支援学校長）より調査報告が行われた。特別支援学校の体育的な活動や部活動・クラブ活動の実施状況や、障害者スポーツに係る資格の保有状況、運動や体育で困っていること等について具体的な結果を示しながら、参加者と現状を共有しながら今後の課題等について述べられた。（写真4）



写真4 【全国調査報告】

4) 事例報告（全体発表）

全体発表は、2つの特別支援学校に報告をお願いした。1校目は、宮崎県立日南くろしお支援学校で、同校は、文部科学省の委託事業である「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」に取り組んでいる。自校の体育・スポーツ活動の取組状況としてパラアスリートの招聘やスポーツを通じた高等学校等との交流を中心に実践報告があった。また宮崎県内のオリンピック・パラリンピック等開催に向けた取組についても紹介があった。

2校目は、東京都立城北特別支援学校で、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地である東京都におけるオリパラ教育に関する取組の報告をお願いした。さらに、東京都立肢体不自由特別支援学校体育科の教員が中心となって作り上げた「ハンドサッカー」というオリジナルの競技の紹介があった。

5) 基調講演

日本体育大学教授の野村一路氏より、特別支援学校の体育・スポーツ活動の実態に即して、今後どのような形で体育・スポーツ活動の推進を行っていくことが望まれるかについて基調講演を行った。幼稚部や小学部低学年の時から体育の重要性や障害の重度化・重複化する学校現場の中で、スポーツを実施することが困難と考える指導者も少なからずあることに対して、「困難としているのは指導者側のスポーツに対する認識や知識」の不足との指摘や、卒業後の長い就業生活や日常生活において、継続した運動の重要性を理解啓発していくことが必要である旨の講演内容であった。（写真5）



写真5 【基調講演】



写真7 体育館でのボッチャ実践交流の様子

6) スポーツ実技交流（ボッチャ）

本協議会では、多様な障害種の学校の授業や小・中学校等との交流及び共同学習の場面でも取り扱われることが多い、ボッチャを取り上げた。

会場を本研究所の体育館に移して、実技交流を行った。講師を一般社団法人日本ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝氏に依頼し、競技の進め方やボッチャの指導方法等について、実技体験を交えながら実施した。村上氏はリオパラリンピックのボッチャチームのコーチとして、チームに帯同しており、リオパラリンピックの選手団の活躍の背景やエピソードなどを交えながら、ボッチャの競技特性、楽しみ方のコツ、さらには練習方法や指導のポイントなどについて講話と実技を通じて丁寧かつ具体的にご指導いただいた。交流の中では、参加者同士でコミュニケーションを図りながら作戦などを考えたり、日々の学校での指導に生かすポイントを学んだりしながら進められた。（写真6・7）



写真6 講師村上氏による講義

7. 協議会を振り返って

協議会終了後に、参加者にアンケートの協力を依頼し、参加者47名中41名からアンケートの提出があった。アンケート結果は次のとおりである。

質問項目Ⅰ：協議会全体について有意義なものであると思いますか。

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 有意義であった	32	78
2 どちらかといえば有意義であった	9	21.9
3 どちらかといえば有意義ではなかった	0	0
4 有意義ではなかった	0	0

質問項目Ⅱ：協議会の構成については適切であると思いますか。

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 適切であった	23	56.1
2 どちらかといえば適切であった	17	41.5
3 どちらかといえば適切ではなかった	1	2.4
4 適切ではなかった	0	0

質問項目Ⅲ：スポーツ庁行政説明の内容について

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 参考となった	30	73.2
2 どちらかといえば参考となった	10	24.4
3 どちらかといえば参考とはならなかった	1	2.4
4 参考とはならなかった	0	0

質問項目Ⅵ：基調講演の内容について

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 参考となった	31	75.6
2 どちらかといえば参考となった	8	19.5
3 どちらかといえば参考とはならなかった	1	2.4
4 参考とはならなかった	1	2.4

質問項目Ⅳ：みんな de スポーツ推進委員会調査報告の内容について

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 参考となった	32	78
2 どちらかといえば参考となった	9	22
3 どちらかといえば参考とはならなかった	0	0
4 参考とはならなかった	0	0

質問項目Ⅶ：スポーツ実践交流（ボッチャ）の内容について

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 参考となった	35	85.4
2 どちらかといえば参考となった	4	9.8
3 どちらかといえば参考とはならなかった	0	0
4 参考とはならなかった	0	0
5 無回答	2	4.8

質問項目Ⅴ：事例報告（全体発表）の内容について

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
1 参考となった	30	73.2
2 どちらかといえば参考となった	10	24.4
3 どちらかといえば参考とはならなかった	1	2.4
4 参考とはならなかった	0	0

また、アンケートでは、自由記述部分を設けて、参加者の感想や意見を求めた。主な内容は次の通りである。

<自由記述主な内容>

- ・実践的な研修だけでなく、調査の結果や障害者スポーツの現状を知ることができて、とても参考になった。
- ・体育・スポーツに特化した協議会は初めてで、とても興味深く話しを聞かせてもらった。
- ・いろいろな立場の方から幅広い視点からのお話を聞くことができて大変有意義であった。
- ・他県の先進的な取組を学ぶことができた。自県と同じ課題（改善がスムーズにっていない事柄）をもっていることを知り、今後特別支援学校の体育・スポーツにおける取り組むべき内容を確認することができた。

- ・ボッチャの実技については、戦術や練習の運び方（進め方）など参考になった。
- ・どの話にも興味を持って聞くことができましたが、もう少しじっくり聞きたいと思いました。
- ・内容はどれもボリューム感があり、貴重な時間であった。それゆえ、1日で終わる日程がちょっときつい。
- ・事前に提出した情報収集をしたい内容についての情報提供や交換会があってもよかった。
- ・体育館が暑かった。

等

8. 成果と課題

今年度初めて開催された本協議会は、参加者からのアンケート結果を見ると、全ての質問項目において90%以上の参加者が、「有意義であった」「参考になった」等と回答しており、概ね好評であることがうかがえる。特別支援学校の体育・スポーツに焦点を当て、行政説明、調査報告、講演、実技等の内容が一体化された教員を対象にした協議会や研修会がこれまであまり開催されたことがないなどの声を聞くと、本協議会を開催する意義をあらためて確認することができた。

今回の協議会の内容が充実しており好評であった反面、参加者からは、「もう少し一つ一つの内容をゆっくり聞きたかった」、「参加者同士で各地域の取組や授業等に関する情報交換をもっと行いたかった」等の意見がアンケートを通じて寄せられている。今年度の協議会をより充実した内容にするためにも、本協議会の日程及び内容の構成の改善が課題である。

参考文献

スポーツ庁：障害者スポーツ。

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop06/1371877.htm（アクセス日，2017-12-04）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）。

文部科学省：障害者スポーツの推進。

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/suishin/（アクセス日，2017-12-04）